

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	効率的なアミン合成を可能とする非貴金属触媒の開発
Title(English)	Development of Heterogeneous Non-precious Metal Catalysts for Efficient Amine Synthesis
著者(和文)	加藤可百子
Author(English)	Kahoko Kato
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12716号, 授与年月日:2024年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:鎌田 慶吾,原 亨和,北野 政明,片瀬 貴義,伊澤 誠一郎
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12716号, Conferred date:2024/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	加藤 可百子	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	鎌田 慶吾	教授	伊澤 誠一郎	准教授
	審査員	原 亨和	教授		
		北野 政明	教授		
片瀬 貴義		准教授			

### 論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「効率的なアミン合成を可能とする非貴金属触媒の開発」と題し、効率的な一級アミン合成が可能な Co および Ni を用いた触媒系の開発に関して述べたものであり、和文で書かれ、全 4 章により構成されている。

第 1 章では、一級アミンの重要性とその一般的な合成法についてまとめ、貴金属代替触媒によるアミン合成の中でも還元的変換反応およびアルコールの直接アミノ化反応における課題を説明するとともに、本研究の目的と概要について述べた。一級アミンは、農薬や医薬品などの化成品合成に利用される重要な合成中間体である。一級アミンの合成法の中でも、ニトリルの水素化やアルコールの直接アミノ化は環境調和性が高く、工業的にも有用な反応である。従来のアミン合成では、高い活性と選択性を示す Ru、Pt、Pd などの白金触媒を中心に研究が行われてきた。しかし、これらの白金族触媒は希少で高価なため、入手が容易で比較的安価な Co や Ni などの非貴金属触媒に置き換えることが強く求められている。しかし、非貴金属触媒の調製には、金属前駆体から 0 価の活性金属種への変換に高い還元温度が必要であるため、金属粒子の凝集・粗大化により活性が低下する。また、大気中では金属種が容易に酸化されるため、使用時に反応活性が低下するという課題もあった。本研究では、二級アミンの副生による一級アミン選択性の低下が課題であるニトリルの水素化およびアルコールの直接アミノ化という二つの反応に対して、対応する一級アミンを効率的に合成するための不均一系 Co および Ni 触媒の開発を目的とした。第 2 章では、高い原子効率で一級アミンを合成可能なニトリルの水素化に着目し、Co 触媒が貴金属触媒と比較して高い一級アミン選択性を示す反応機構の解明と効率的な触媒系の構築を行った。担持 Co 触媒を用いてニトリルの水素化を行ったところ、反応初期に生成する二級イミンの逐次水素化過程が一級アミンの選択性向上に重要であることを見出した。Co と Pt 触媒による二級イミンの水素化を詳細に検討し、Co 触媒でのみ含窒素有機化合物の存在により二級イミンの水素化が抑制され、高い一級アミン選択性が発現することが明らかになった。さらに、この効果を利用した添加物効果の検討により、既存のアンモニア添加とは異なる一級アミン選択性の向上が可能であることを見出した。第 3 章では、アルコールの直接アミノ化に有効な触媒開発のため、低温で還元可能なナノ粒子の調製法を検討した。フェニルシランを用いることで 2 価の Ni 錯体を 90 °C という低温で還元可能なことを見出し、粒径 10 nm 程度の金属 Ni ナノ粒子触媒 (Ni-Si 触媒) の調製に成功した。種々のキャラクタリゼーションにより、Ni-Si 触媒の Ni 粒子表面は有機ケイ素種に一部覆われていることを明らかとした。また、市販の Ni ナノ粒子との比較検討により、大気暴露後に生成する表面 Ni(OH)<sub>2</sub> 層の水素分子による金属 Ni への還元は、表面有機ケイ素種の存在によって促進されることを見出した。この還元促進効果により、不飽和化合物の水素化において Ni-Si 触媒のみが大気暴露後も活性の低下なく再利用可能であった。第 4 章では、第 3 章で検討した Ni ナノ粒子調製法を担持触媒調製に応用し、効率的にアルコールの直接アミノ化反応を進行可能な触媒系の構築を行った。担体効果の検討よりハイドロタルサイト (HT) が最も効果的であり、反応条件最適化の結果、Ni-Si/HT がアルコールの直接アミノ化において二級アミンをほとんど副生することなく、高い選択性で一級アミンを与えた。ヒドロシラン還元法は、従来の水素還元法よりも金属 Ni への低温還元が可能なことから、Ni-Si/HT の Ni 粒子径は、水素還元法により調製した Ni/HT の値よりも小さくなった。第 3 章で述べた表面有機ケイ素種と同様の効果により、低温水素処理での活性な金属 Ni の生成が可能となるため、Ni-Si/HT が高選択的に目的とするアミノ化反応を促進できることが明らかとなった。

最後に、本研究を総括した。Co や Ni のような非貴金属をベースとし、ニトリルの水素化やアルコールの直接アミノ化から対応する一級アミンを効率良く合成する不均一系触媒の開発を行った。いずれの反応系においても、反応中および反応前の活性金属 Co や Ni 種の表面修飾が、一級アミンの高い活性・選択性や安定性を得るための重要な要因であると考えられる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。